

2 数学—T・Tを有効に機能させた授業

(1) はじめに

本校では、平成8年度よりT・T加配があり、学力向上及び効果的なT・T指導のあり方を研究してきた。毎年、教科が異なり継続的な研究の深化は難しいものがあったが、複数の教科でのT・T指導の実践により、職員間の共通理解が深まっている。

今回は、数学での能力別指導（展開時）の実践例を紹介したい。

(2) 授業の実際

○単元名 「平面図形」

○学力向上の手立て

(基礎・基本の定着のための手立て)

- ・本時に必要な基礎事項を、プリントと黒板を用いて効率よく確認るようにしたい。
- ・能力に応じた学習プリントを準備し、基礎・基本を明確にとらえさせるようにしたい。

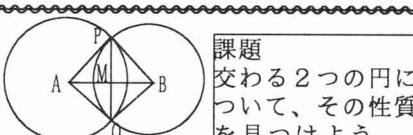
(個に応じた支援のあり方)

- ・T・Tによる机間指導を通して、きめ細かな支援に心がけたい。
- ・興味を持続させるため、一斉、個人、グループ学習など、変化を持たせる授業を構成したい。

(表現力を高めるための手立てのあり方)

- ・発表の機会を多くして、賞賛を与えることにより、自信を持たせるようにしたい。
- ・コース別・能力別学習場面を設定することにより、自分の考えを発表しやすくしたい。

○指導過程

段階	学習活動・内容	時間	形態
展開	<p>3 課題解決の見通しを持つ。 (1) 図に必要な線分や記号を記入する。 (2) 図から成り立つことを予想する。・・・※</p> <p>4 課題を解決する。 (1) 自分に合った課題を選択する。</p> <p>※があまりできなかった生徒 操作 作業 重力コース ①実際に紙を折ることにより、等しい 線分や角や図を見つける ②紙を折って重なった線分や角や図形 を記号を使って表す。</p> <p>A P = A Q, B P = B Q, P M = Q M $\angle P A B = \angle Q A B$ $\angle P B A = \angle Q B A$ $\angle A P B = \angle A Q B$ $\triangle P A B$ と $\triangle Q A B$ は合同 etc</p> <p>③班ごとに小黒板にまとめる。</p> <p>(2) 交わる2つの円の性質をまとめる。</p> <p></p> <p>課題 交わる2つの円に ついて、その性質 を見つけよう。</p> <p>※が十分できた生徒 発表 展開 問題 是真コース ①図形の性質を発表し、確認する。 ②発展課題を行う。</p> <p>①半径が同じ場合に成り立つ性質を考えよう。 ②$\angle P A Q$ を2等分する線分A Bを引きたい。図からBの位置を求めよう。 ③2円の中心A Bがある。P QがABの真ん中を通るようにする2点P Qの位置を求めよう。</p> <p>③班ごとに発表する。</p>	5 20	一斉 個別 ↓ 班